

めあてを考えよう！(1)

先週の校内研では、第2部で「めあて」について考え合いました。校内研までに黒板に「国語の授業で実際にやってみた『めあて』を書いていただき、みんなでめあてについて考えました。

4年1組の加藤先生がトップバッターで黒板に書いてくださっていたので、後から書く方も書きやすかったと思います。やる気いっばいの加藤先生ありがとうございます。1番に書いてくださっていた4年1組のめあてを中心に、「主体的な学びを実現させるめあてとは、どんなめあてなのか」についてみんなで考えることができました。

(もと) ヤドカリとイソギンチャクの関係を考え、筆者の意見を考えよう。

校長先生に加藤先生の質問で、加藤先生の考えが整理されていくのがわかりました。

「考えが2回出てきていますが・・・」

「めあての答えになるものがまとめ、まとめは何？」

〈まとめは、ヤドカリとイソギンチャクは、助け合って生きている。〉

(途中) ヤドカリとイソギンチャクは、どんな関係だろう。筆者の言いたいことは、何だろう。

「2つあるけど、どちらがより大切？1つにすると・・・。」

(改善後) 筆者の言いたいことは何だろう。

(児童の振りかえり)

「みんなの意見は、いろいろあったけど、『助け合い』というキーワードはほとんどいっしょだったから(筆者の伝えたいことは)助け合いだなと思いました。」

このように、どんなまとめにするのか振り返りに書かせたいことは何なのか考えて逆向きの思考でめあてを考えていくと分かりやすいですね。

また、1年2組のめあてが、渡邊先生の指導でかわったそうです。わかりやすいですね。

(もと) ともだちの嬉ぶりをきいて、くふうしてよもう。

(改善後) どうやってよもうかな。

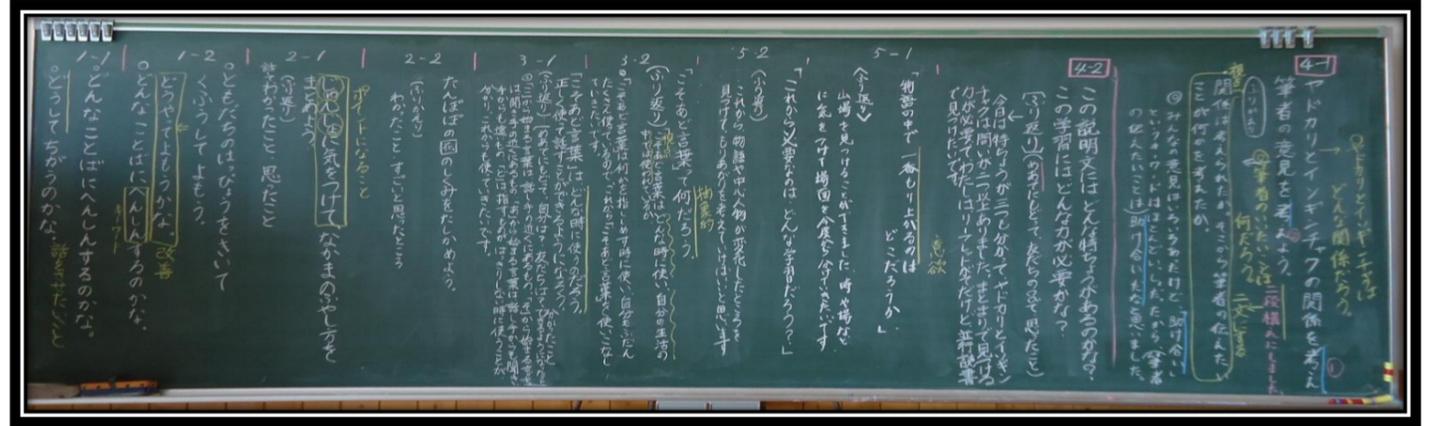
他にも、みなさんのめあてから学ぶことがたくさんありました。

「物語の中で一番盛り上がるのはどこだろうか。」・・・意欲につながる

「じゅんじゅに気をつけて、なかまのふやし方をまとめよう。」・・・ポイントになること

「どんなことばにへんしんするのかな。」・・・キーワード

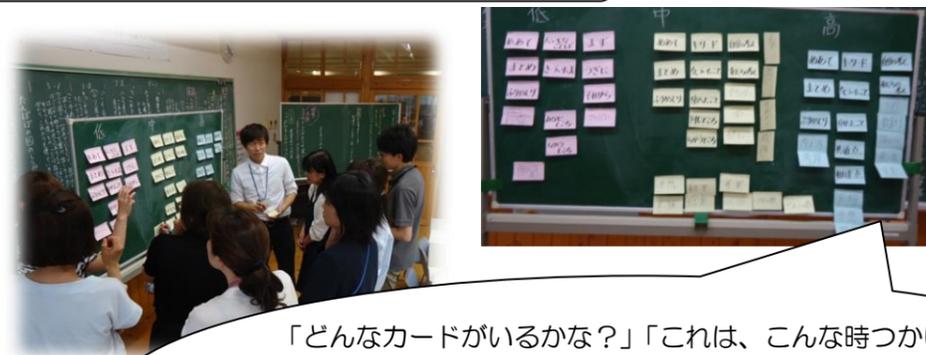
「こそあど言葉って何だろう。」・・・抽象的⇄具体的「こそあど言葉は、どんな時に使うのだろう。」



ポイント

- ・めあては疑問形にすると、子どもたちは答えようとする意欲がわく、ただいつも疑問形がよいとは限らない。その内容に応じて工夫していく。
- ・めあては身につけさせたい力をもとに考えていく。何が一番大切なのかを大事に。
- ・めあてを出すタイミングを工夫する。
- ・「まとめ」と「振りかえり」の違いは？「まとめ」は価値の共有。めあてに対する答えになること。今日のねらいにそったものを書く。「振りかえり」は、どんなことを書かせたいのか、「振り返りの視点」を知らせるとよい。学習の過程を振り返り、自己の変容が分かるものがよい。

板書に用いるカードをみんなで考えました



「どんなカードがいるかな?」「これは、こんな時つかいたいよね。」先生方が各ブロックで話し合いながら使いたいカードを選んでくれました。近いうちに作りたいと思います。待ってくださいね。



研究協議での積極的なご意見ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。分からないこと、もやもやしていること・・・みんなで解決していきましょう。

先週の校内研は、時間がかかなりオーバーしてしまいました。申し訳ありません。これからは、時間配分を考えて進行できるように頑張ります。

修学旅行団の先生方お疲れさまでした。今回参加できなかった方が多かったので2枚にまとめました。